

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

長崎県対馬市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

対馬市SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

対馬市SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

2030年のあるべき姿は、第2次対馬市総合計画の「自立と循環の宝の島 対馬」にSDGsの視点を取り入れ、経済・社会・環境の政策統合によって4つの主要施策「ひとづくり」「なりわいづくり」「つながりづくり」「ふるさとづくり」の相乗効果を高める。特に、国内外で急成長するサーキュラーエコノミーを好機に、「循環」を強く意識した対馬の姿として、「人もヤマネコもウミガメも」安心して共生し、森・里・海が連環する「サーキュラーアイランド対馬」を描く。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	20XX年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	持続可能な産業の推進－島外からのスタディツアー参加団体数【9.2】	2020年 0 団体	2020年	0 団体	2030年	30 団体	0%
2	海洋プラスチックごみリサイクル利用企業数【12.5】	2020年 1 社	2020年	2 社	2030年	30 社	3.4%
3	ESCO型民間エネルギー会社の設立（チップボイラによる熱エネルギーサービス事業）【7.2】	2020年 0 社	2020年	1 社	2030年	1 社	100%
4	地域運営組織設置数【11.3】	2020年 0 校区	2020年	0 校区	2030年	12 中学校区	0%
5	自動運転公共交通路線社会実装数【11.2】	2020年 0 路線	2020年	0 路線	2030年	2 路線	0%
6	学校教育ESD実施校数【4.7】	2020年 2 校	2020年	3 校	2030年	校（島内） 34 全小中高	3.1%
7	対馬グローバル大学（仮称）修了者数【4.7】	2020年 0 名	2020年	28 名	2030年	100 名	28.0%
8	対馬SDGs実践塾修了者数【4.7】	2020年 0 名	2020年	0 名	2030年	300 名	0%
9	「対馬学」研究奨励数【4.7】	2020年 10 件	2020年	0 件/年	2030年	10 件程度/年	0%
10	対馬学フォーラムでのポスター発表本数【4.7】	2020年 50 本/年	2020年	0 本/年	2030年	70 本/年	0%
11	対馬SDGsクラブの若者・女性会員数【5.5】	2020年 0 名	2020年	0 名	2030年	100 名	0%
12	海ごみ回収量【14.1】	2018年 8,000 m ³	2020年	6,955 m ³	2030年	10,000 m ³	69.6%
13	海洋プラスチックごみリサイクル率（ペットボトル・硬質プラスチック類）【14.1】	2018年 37.4 %	2020年	0.85 %	2030年	80.0 %	1.1%
14	磯焼け食害魚の利活用率【14.2】	2018年 5 %	2020年	100 %	2030年	100 %	100%
15	磯焼け（海藻類）再生率【14.2】	2018年 - %	2020年	不明 % (2013年比)	2030年	2 % (2013年比)	不明
16	水産資源回復及び漁業所得維持のためのブルーツーリズム推進数（農林漁家民宿登録数のうち、漁家分）【14.7】	2018年 17 軒	2020年	19 軒	2030年	30 軒	15.4%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	20XX年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
17	シカ推定生息頭数【15.1】	2015年 39,200 頭	2020年 41,700 頭	2030年 3,500 頭	-7.0%
18	シカ・イノシシ加工品・生肉・皮販売額【15.1】	2018年 2,843 千円	2020年 2,817 千円/年	2030年 2,000 千円/年	140.9%
19	森林下層植生再生率【15.1, 15.2, 15.4】	2018年 0 %	2020年 0 %	2030年 50 %	0.0%
20	森林管理によって発行したJ-クレジット販売量【15.a, 15.b】	2018年 15 tCO2/年	2020年 871 tCO2 (販売・移転量累計)	2030年 2,107 tCO2 (販売)	2.4%
21	ツシマウラボシシジミ（国内希少野生動物種）が再導入され復元された生息地の数【15.5】	2018年 0 地区	2020年 2 地区	2030年 3 地区	66.7%
22	ツマアカスズメバチ（特定外来生物）駆除巣数【15.8】	2018年 358 個	2020年 24 個	2030年 0 個（根絶）	93.3%
23	気候非常事態宣言【13.2】	2020年 未 宣言	2020年 (宣言準備作業中) 宣言	2030年 済 宣言	20%
24	気候変動適応計画策定および実行【13.2】	2020年 未 策定	2020年 (計画策定作業中) 策定	2030年 産業、自然生態系、インフラ、健康面において適応策を実施	20%
25	市内CO2排出削減率【13.1】	2016年 291,000 tCO2/年	2020年 不明 %	2030年 -26 % (2016年度比)	不明
26	生ゴミ回収リサイクル参加世帯数【13.1】	2020年 1,988 世帯	2020年 2,061 世帯	2030年 3,000 世帯	7.2%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

上記、15と25につきましては、指標設定の参照元となる分野別基本計画の進捗管理におきまして、現状値把握に高度な専門性と多くの時間を要することから、今回の進捗評価で報告することができず、現状値・達成率を不明としております。

循環経済という観点では、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、SDGsスタディツアーやSDGs実践塾といったイベントを開催することができず、循環経済構築への協力企業の掘り起こしができませんでした。海洋プラスチックのリサイクルについては、伊藤忠商事（株）様が日用品容器へのリサイクル試作と営業に尽力いただいておりますが、コロナ禍による経済的な影響もあり採用企業が広がらず、思うように実績を伸ばすことができていません。

そうした状況下でも、同社傘下のグループ企業（ファミリーマート、日本サニパック）から実践し、同社の直営店やオフィシャルムービーで対馬を紹介いただくなど、メディアの記事取り上げを含め、大きな社会的PR効果が得られました。また、当市のSDGs未来都市計画の取り組みに賛同し、寄付の申し出や連携協定に結び付くケース（アスクル等）が生まれ、これまで連携の必然性が無かったような企業との連携がSDGsを通じて生まれています。アスクル（株）とは海洋プラスチックでの連携のみならず、ごみ排出やCO2排出抑制の観点から事務用品であるクリアファイルの島内回収及び水平リサイクルの連携を行う予定です。このように、今後、多様な企業への波及や、森・里・海の連環に向けた連携支援、企業版ふるさと納税等の増加が期待されます。

関西経済同友会環境・エネルギー委員会より、海洋プラスチックの現状とリサイクルの取り組みについて、現地視察（スタディツアー）受け入れ依頼がある等、経済界の対馬への関心は高く、SDGs未来都市の構想実現に向けて追い風が吹いていると言えますが、依然、コロナによる人流抑制は大きな課題となっています。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	SDGs推進基盤づくり	①地域運営組織設置数	2020年 0 校区			2020年 0 校区	2022年 6 校区	0%
2		②学校教育ESD実施校数	2020年 3 校			2020年 3 校	2022年 10 校	0%
3		③対馬グローバル大学(仮称)修了者数	2020年 0 名			2020年 28 名	2022年 50 名	56%
4		④対馬SDGs実践塾修了者数	2020年 0 名			2020年 0 名	2022年 100 名	0%
5		⑤「対馬学」研究奨励数	2020年 0 件			2020年 0 件	2022年 30 件	0%
6		⑥対馬学フォーラムでのポスター発表本数	2020年 50 本			2020年 0 本	2022年 300 本	0%
7		⑦対馬SDGsクラブの若者・女性会員数	2020年 0 名			2020年 0 名	2022年 60 名	0%
8	「海」を核としたサーキュラーエコノミーの活性化	①島外からのスタディツアー参加団体数	2020年 0 団体			2020年 0 団体	2022年 10 団体	0%
9		②海洋プラスチックごみリサイクル利用企業数	2020年 1 社			2020年 2 社	2022年 10 社	11%
10		③海ごみ回収量	2018年 8,000 m ³			2020年 6,955 m ³	2022年 10,000 m ³	70%
11		④海洋プラスチックごみリサイクル率(ペットボトル・硬質プラスチック類)	2018年 37.4 %			2020年 0.85 %	2022年 60 %	1.4%
12		⑤磯焼け被害魚の利活用率	2018年 5 %			2020年 100 %	2022年 100 %	100%
13		⑥水産資源回復及び漁業所得維持のためのブルーツーリズム推進数(農林漁家民宿登録数のうち、漁家分)	2018年 17 軒			2020年 1 軒/年	2022年 1 軒/年	100%
14	「森」「里」を核としたサーキュラーエコノミーの活性化	①ESCO型民間エネルギー会社の設立	2020年 0 社			2020年 1 社	2022年 1 社	100%
15		②シカ推定生息頭数	2015年 39,200 頭			2020年 41,700 頭	2022年 11,490 頭	-9.0%
16		③シカ・イノシシ加工品・生肉・皮販売額	2018年 2,843 千円			2020年 2,817 千円/年	2022年 3,500 千円/年	80%
17		④森林管理によって発行したJ-クレジット販売量	2018年 15 tCO ₂ /年			2020年 871 tCO ₂ /年	2022年 2,107 tCO ₂ (元換)	2%
18		⑤ツシマウラボシシジミ(国内希少野生動物種)が再導入され復元された生息地の数	2018年 0 地区			2020年 2 地区	2022年 1 地区	200%
19	⑥生ゴミ回収リサイクル参加世帯数	2020年 1,988 世帯			2020年 73 世帯/年(新規参加世帯)	2022年 150 世帯/年(新規参加世帯)	49%	
20	緊急的な気候変動対策による安心安全な島づくり	①気候非常事態宣言・気候変動適応計画策定	2020年 未 宣言・策定			(宣言・宣言・策定作業 策定・中) 実行	2022年 宣言・済 策定・実行	20%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

対馬市では、本年4月にSDGs推進室を新設し、SDGsの推進基盤づくりとして、SDGs推進本部、SDGsアドバイザーボード、SDGs総合研究所等の体制構築、行動を促すための市民・事業者への普及啓発活動や、SDGsアクションプランづくりに取り組んでいます。

現在、アクションプランづくりや普及啓発の一環として、オンラインで市民ワークショップを開催しています。事業者の認証・登録制度の導入や、自主財源確保のための法定外目的税（入島税）導入など、市民・事業者側から提案の声が挙がっており、プランづくりを通じて、行動・実行に向けた場づくり・プラットフォームづくり（＝未来都市計画書での「SDGsクラブ」）につなげていきたいと考えています。プランは年度内策定の予定で、R4年度以降、市民・事業者が主体的・自発的にSDGsに取り組む仕掛け（施策）を展開していきたいと思っています。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

コロナ禍においてもSDGs推進の社会基盤となる(1)の1の「地域運営組織設置」や20の「気候非常事態宣言・気候変動適応計画策定」は取り組めることではありましたが、本格的な施策実施に向けた推進基盤づくりに労力と時間を要し、個別の施策につきましては、先進事例の情報収集や法令・制度の分析程度に留まりました。また、複数の部局にまたがる案件となりますので、組織内の横断的な連携強化や加速化が課題となります。本格稼働を始めたSDGs推進本部を母体に、新設されたSDGs推進室が総合調整を担いながら課題解決と目標達成に向けて取り組んでまいりたいと思います。特に、SDGsアドバイザーボードでは、市民の当事者意識の醸成と参加・参画の仕組みづくりとポストSDGsを見据えたアクションの検討及び行動のスピードアップについて指摘を受けておりますので、次年度は新たに「SDGs推進コーディネーター」を複数配置し、各主体が自主的・自発的に行動変容を起こせるような仕掛けを行い、指標達成の加速化を図りたいと考えています。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・「対馬グローバル大学」の創設とその実施が活性化しており、修了生を市民研究員に委嘱するなどSDGsの達成に向けた活動の推進を発展させている点が高く評価できる。
- ・「海洋プラスチックごみリサイクル利用企業数」は2020年2社にとどまっているが、2030年の目標値の妥当性を再検討して、場合によってはより現実に沿った評価指標に見直すことも視野に検討されることに期待する。
- ・「グローバル大学」及び「対馬SDGs実践塾」のそれぞれの修了者の活動をフォローアップする仕組みについて検討されるとともに、終了者間のコミュニケーションが可能となるようなネットワークの構築についても検討が望まれる。
- ・「対馬SDGs倶楽部の若者・女性会員」が2020年でも0名というのは何故か、説明が望まれる。
- ・「海洋プラスチックごみリサイクル率」が2020年は0.85%と低迷しているのは何故か。原因究明を徹底し、今後の再構築が必要である。
- ・コロナ禍で進捗の望ましくないものもあるが、コロナ禍を経て活動内容の見直しも含めて今後の政策の在り方を検討されることに期待する。